

○ 秋畑の土作り

◆ 齊一で良い作柄は秋畑から！

◆ 土づくりと良質堆肥の施用をしっかりと行いましょう。

① 耕盤のある畑

- ・ サブソイラー、プラソイラー、耕盤破碎機などで処理する。

② 排水不良畑

- ・ 地形、土質によりサブソイラー、トレンチャーなどを利用し暗渠や明渠排水溝を整備する。

③ 耕土の浅い畑

- ・ 耕盤破碎し、プラウ耕により深耕と碎土を行う。

④ 土壌改良

- ・ PHの調整、土壌改良にヨーカルM1 0a 当り4～5袋秋の耕起に散布する。
- ・ 苦土欠乏症には、苦土石灰を4～5袋秋の耕起に散布する。

⑤ 耕盤のある畑

- ・ 花崗岩土壌は全体に地力不足です。1 0a 当り1,500kg の堆肥を施用する。
- ・ 土壌消毒畑は、春の耕起前か、施肥時に堆肥の散布を実施する。

○ 病害対策（来年作に向けて）

① 耕種的防除 病害を 増やさず ・ 残さず ・ 広げず

- ・ 罹病残幹を圃地から取り除く。（菌密度を下げる）
- ・ ロータリー耕で残幹根を細かく砕き早く腐らせる。
- ・ スキ耕で耕耘、紫外線に当て乾燥させる。
- ・ 汚染水の流入を防止し、排水を良くする。
- ・ 良質堆肥施用による地力増進（病原菌の拮抗作用）も効果が大きい。

② 薬剤による防除

耕耘が不十分で残幹や土塊が残っているとガスが充分回らない場合があります。土壌をできるだけ深く耕耘し、ロータリーで細かく砕いてガスが広がりやすい状態にし、外気温10℃程度と土壌水分（軽く握って割れ目が出来る状態）を見て消毒を実施する。

◆ バスアミド微粒剤（立枯病・疫病）

- ・ 全面土壌混和处理 10a 当り20～30kg 秋期処理
- ・ 圃地全面に均一に散布しスキ耕（プラウ）等で深さ20～30cm に土壌と十分混和後鎮圧しガスの蒸散を防ぐ。 散布混和後は春先まで土壌を動かさない

◆ クロールピクリンくん蒸剤（99.5% 深層土壌消毒用）（立枯病）

- ・ 深層全面注入処理 1穴2ml 以内 10a 当り13ℓ 植付3ヶ月前まで
- ・ 専用機を用いて40×40cm 間隔で30cm の深さに注入し直ちに注入口をふさぎ鎮圧する。
- ・ 天候を見定め早め実施する。
（土壌水分の多い状態は、初期生育不振の心配があります）

◆ NCS液剤（50%）（立枯病・疫病）

- ・ 全面土壌混和处理 10a 当り30ℓ（立枯病）
10a 当り20ℓ（疫病） } 植付30日前まで
- ・ 原液を2～4倍に希釈して耕耘時に土壌全面に均一に散布し直ちに土壌と混和する。

※ 立枯病菌は、地下水位が低い所に多く存在している。深さ30cm に規定量の薬剤を注入する。

※ 疫病菌は、地下水位が高いところに多く存在している。深さ15～25cm で土壌と十分混和する。

※ 春先の施肥・畦立時リドミル粒剤を5～10kg 土壌混和する。

◆ 土壌消毒剤を散布したら春先ガス抜きを縦・横 丁寧に耕耘する。